

C.C.O.M

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

JAN.2018
VOL.65

広島県生活協同組合連合会
発行 2018年1月10日



希望を

CONTENTS

新年の挨拶	1
広島県生活協同組合連合会 会長理事 岡村信秀	
新春特集：「次代へ」	2 - 8
「特別対談」：平和の未来 松井 一實 広島市長 岡村 信秀 広島県生協連会長理事	
会員だより・トピックス	9
・「ヒバクシャ国際署名」 ・「介護職員スキルアップ研修」を開催 ・「介護事業戦略トップセミナー」を開催	
事務局だより	10
・理事会・委員会報告 ・消費者ネット広島情報	
『日々のことから』	11
広島大学生協・福山市立大学生協 専務理事 吉山 功一 氏 ・編集室から	

【表紙写真】

広島市佐伯区からのぞむ日の出。
厳しい冬の冷え込みで、太陽光は
サンピラーに似た光の帯を空中に
立ち上らせている。

新年のごあいさつ

協同組合の 展望と 三位一体の 原則



広島県生活協同組合連合会 会長理事

岡村 信秀

明けましておめでとうございます。昨年は県連創立50周年を迎えるにあたり、会員生協の皆様には多大なるご協力と積極的な参加をいただき誠に有難うございました。おかげさまで、市民平和フォーラム、祝賀会、映画「この世界の片隅に」上映、50周年記念誌作成など主な行事は無事終了いたしました。今後は、50年の蓄積を土台に平和と連帯のさらなる前進に向け邁進していく所存です。とりわけ本年は、軍事的脅威や核リスクが高まる中、多様な団体と個人が連帯し「ヒバクシャ国際署名」に取り組み、世論を盛り上げていくことが重要です。

さて、国際社会はグローバル経済を背景に、気候変動、貧困と格差の拡大、核リスクの拡大など人類の危機に直面しています。そのような中、国連は貧困や飢餓に終止符をうち、地球を保護し、すべての人々が平和と豊かさを享受できることをめざし、17の項目にわたって「持続可能な開発目標」(SDGs)を掲げました。これは2016年から2030年までの15年間で達成に努めるべき世界共通の目標となりますが、その実現に向けては協同組合への期待も高まっています。

国内においても、貧困と格差の拡大、雇用不安、コミュニティの空洞化、大規模自然災害の多発、原発事故の発生などくらしや地域を直撃する重大な問題が発生しています。さらには、社会全体が混雑とし、生きにくさと将来不安が増す中、展望がなかなか見えないのが実態です。

時代はもう一つの道として、地域資源を活用し、浪費や環境への負荷を最小限におさえた「地域循環型の社会経済システム」の形成とそれを土台に多様性や創造性を認め合い、共に生き、共に育ち、共に働き、人々の幸福感や夢と希望が感じとれる新たな社会経済システムを求めています。この内実は県連のビジョンである「誰もが安心してくらせる持続可能な地域コミュニティの再生」と同じ考え方です。この新たなシステムづくりは、依存的・要求型ではなく自立・問題解決型、すなわち当事者主体の地域づくりがカギをにぎるため、丁寧な合意形成と協同が大切となってきます。また当事者主体の運営を連続させていくためには、そのプロセスにおいて民主主義の貫徹が不可欠です。

民主主義を語るとき、リンカーンの「人民の、人民による、人民のための政治」がよく引用されますが、実は協同組合の運営原則である出資・利用・運営の「三位一体の原則」はまさにリンカーンの言葉と酷似し、民主主義の実践そのものといえます。組合員が、自分達の共通の思いや願いを実現するために出資し、協同からつくり出された商品やサービスを利用し、自らが主体的に運営するという実践です。この考え方は当事者主体の地域づくりにも有効です。だとすると、今後は協同組合版民主主義を自組織の内部で一層浸透させ、地域の多様な団体や行政とも連携し、くらしや地域の課題を取り組むことは、結果として新たな社会経済システムづくりへの参加となり、ひいてはSDGsへの貢献につながります。

民主主義がゆらいでいる現代だからこそ「三位一体の原則」の考え方や実践の広がりには重要な意味をもちます。新年を迎えるに当たり、改めておれない軸として堅持することを決意いたします。

広島県生協連創立 50 周年企画 対談：「平和の未来を考える」



対

広島市長

松井 一 實

平和の未来

談

広島県生活協同組合連合会
会長理事

岡村 信 秀

「平和の未来を考える」

一方で、7月に国連で採択された「核兵器禁止条約」が、10月27日、国連軍縮総会で、日本が提案した核兵器廃絶決議案で144カ国の賛成で採択された。また、2017年のノーベル平和賞に、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）が選ばれ、12月10日（日本時間）ノルウェーのオスロでその表彰式が行われた。新しい年2018年は如何なる年に、広島県生協連は、松井一實広島市長に、新しい年の平和の行方を問うてみた。



2017年明け早々、アメリカに新大統領ドナルド・トランプ氏が就任し、その破天荒な言動と姿勢で世界中が右へ、左へと揺すぶられ混乱を極めている。また、一方で、アメリカに敵対する北朝鮮の度重なるミサイル打ち上げ、核実験と、東アジアはもとより、世界の平和が脅かされている。極め付きは、17年12月6日のトランプ大統領のイスラエルの「エルサレム首都」宣言。紛争の火薬庫中東にまた、激震が走った。

広島県生協連創立 50 周年企画 対談：「平和の未来を考える」



平和への 思い

はどこから？

平和への思いはどこから…

岡村 本題の平和の話に入る前に、松井市長の平和に対する想いをお聞かせください。市長自身の志、公約について、被爆地ヒロシマの市長として、平和を考えるきっかけとなったのは何だったのでしょうか。

松井 市長に就任する際、広島市が目指すべきまちは、世界に誇れる「まち」であると考えました。広島市を世界に誇れる「まち」にするために、「活力とにぎわい」「ワーク・ライフ・バランス」、そして「平和への思いの共有」という三つの要素を基本としたまちづくりを考え推進してきました。世界で最初に被爆し、廃墟から立ち直った本市は、平和都市の建設を進めてきた先人の努力をしっかりと受け継ぎ、「平和の

岡村 日頃より、私も生協の活動に、ご理解・協力を賜り、お礼申し上げます。広島県生協連は、おかげ様で今年、創立50周年を迎えることになりました。創立以来、「平和とより良い生活のために」をスローガンに、会員生協と共に、組合員の暮らしの向上と、平和な地域社会づくりに取り組み、現在14会員生協、約88万世帯の組合員組織に成長いたしました。これもひとえに松井市長はじめ、行政、友誼団体の皆様のご指導、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

そこで私どもは、被爆地広島のある生協ということで、「平和」を中心に50周年を記念しようと考えました。

松井 多くの組合員を持たれている生協さんに、平和について考えていただける。私どもの方こそ、ありがたい話です。

広島県生協連創立 50 周年企画 対談：「平和の未来を考える」



尊さ」を実感できる「まち」であり続けなくてはならないと考えたのです。

岡村 世界に誇れる「まち」にするために、三つの要素を基本にしているということですね。

生協との関わりが平和との関わりに

岡村 私の平和との関わりを振り返ってみると、大学を卒業し、証券会社に就職し、たまたま広島支店に配属されました。証券会社に勤めたままでは、平和について考えることはなかったかもしれません。生協へ転職した時、私は26歳でしたが、その後31歳の時に私自身のもう一つの大きな転機が訪れました。

当時「10フィート運動」といって、アメリカが第二次世界大戦の記録フィルムを大量に所蔵していたことが分かり、それを日本に買い戻そうという運動が高まったんです。その上映フィルムのなかに、被爆した母子の写真がありました。子どもの上に母親が覆い被さって亡くなっていました。母親の背中が黒こげです。その時、私の子どもは5歳と3歳でした。その映像が、自分の子どもと重なったのです。

その時、「これはいけない。戦争、核兵器はこういう悲惨さと悲劇をもたらす」と、強く思いました。それが私の平和に対する思いを強くさせた大きな転機でした。

松井 誰にでも、一つのきっかけや動機があるのですね。

岡村 最近話題になった映画『この世界の片隅に』は、人々の日常のくらしと戦争を描いたものです。生協というのは、人々の日常の暮らしと強く繋がっています。先ほど述べたように、生協は戦後一貫して「平和とより良い生活のために」をスローガンに、食の安全や暮らしの安心を目指し、事業や活動を展開してきました。そしてその中心には、常に次代を担う子どもたち

の幸せを願う親の姿がありました。戦争と核兵器は平和な日々の暮らしを土台から破壊し、子どもの夢や未来を奪い去ります。平和だからこそ得られる日常。生協の平和活動の原点はまさにここにあります。

状況を用意する。

松井 体験は違うけれども、平和という問題を考える時に、自分の生活体験の中で、「どうしたら…」と真剣に考えた時に初めてそうした思いは獲得できると思うのです。

だから、自治体の長は市民に対して、そうしたことができるような状況というものをいつも用意してあげて、ちゃんと考えようという人には、ちゃんと考えることができるような状況をつくってあげる、ということが大事だと思うのです。

岡村 状況を用意する、そういうことですね。運動の先頭に立つものの、重要な役割だと思います。

松井 私の平和への直接の動機づけについては、家は豊かではなかったが、親父は職人で一生懸命生きていた。住まいは原爆で焼けてしまい、そのとき親父は軍隊に行っていました。母親と家族は焼け出されて牛田に移り、そこで私が生まれました。原爆は、私たち一家を悲惨の淵に突き落としました。おじさん一家は被爆して一人生き残り、そこに親父が引き上げてきました。尋常高等小学校を出て職人になった父は、自分で働いて家計を助けていましたが、10歳くらいしか違わない弟を自分が働いて大学に行かせるということで、京都の私学である立命館に行かせた。父は、私たちにも「わしが稼ぐから、お前たちは勉強をしろ。わしがんばるから。」ということをやっていました。

岡村 戦争と原爆は、一つの家族だけでなく人々にさまざまな不幸をもたらしたということですね。

松井 戦争と原爆によって不幸を背負った私たち家族

広島県生協連創立 50 周年企画 対談：「平和の未来を考える」



ですが、しっかりと生きている家族に誇りを持ちながら、私は戦後生きてきました。

その時、世の中の仕組みを知らずに与えられた中で一生懸命にやっても、うまくいかないこともあるのではないかと、ということを理解しました。

岡村 よくわかります。

松井 大学を卒業して労働省に入省。そこでがむしゃらにやることで組織の中で生かしてもらいました。

「迎える平和」の推進

岡村 「迎える平和」について主張されていますが、現時点での評価はどうですか。

松井 平和の実現に向け、広島市では「迎える平和」を掲げ、為政者等の被爆地訪問や国際会議の誘致などに取り組んできました。核保有国の為政者を始め、より多くの人々に72年前の8月6日、ヒロシマの空に立ち昇ったきのこ雲の下で何が起こったかを知っていた、被爆者の核兵器廃絶への願いを受け止めた上で、「核兵器のない世界」に向けた決意を固め、世界中に「共感」の輪を広げていただきたと考えています。

岡村 強制するのではなく、謙虚に迎えて、事実を知って貫くことが大事ですね。

松井 昨年の米国のオバマ前大統領の訪問以降、カザフスタンのナザルバエフ大統領やチエコのソボトカ首相をはじめ多くの方々に本市を訪れていただき、「核兵器のない世界」を願うヒロシマの心を共有できました。

また、昨年度の平和記念資料館の入館者数が前年度に比べて大きく増加（対前年度比…24万4,921人増、16・4%増）し、過去最多の173万人を超える入館者数となっています。

今年11月にはアジア・太平洋地域において軍縮問題に対する意識を高め、軍縮・安全保障に関する対話を

行う国連軍縮会議を広島で開催します。引き続き、多くのの方々に被爆の実相を知っていただき、被爆者の思いが市民社会における共通の価値観となるよう、「迎える平和」を着実に推進していきたいと考えています。

岡村 話せば確固たる信頼関係が築かれてきて、その後は非常に友好的に、これまで前進しなかったことが前進するということですね。

松井 そうです。大体みなそういう方向に行っています。最初につづいていくと、本音が聞けます。懇切に、この言葉はこうだ、あれはこういうことだと説明してあげれば、分かっていたいただけます。

平和首長会議

岡村 核兵器廃絶に向けて平和首長会議の会長として、国内だけでなく、海外を含め、都市の首長を組織されて世界的な取り組みを展開されていることに敬意を表します。活動についてお聞きします。

松井 平和首長会議ができた経緯は、1982年（昭和57年）6月24日、ニューヨークの国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、荒木武・広島市長（当時）が、世界の都市が国境を超えて連帯し、共に核兵器廃絶への道を切り開こうと「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」を提唱したことに始まります。

そして、広島・長崎両市長は、世界各国の市長宛てにこの計画への賛同を求めました。平和首長会議は、この趣旨に賛同する都市（自治体）で構成された機構で、1991年（平成3年）に国連経済社会理事会のNGOに登録されました。

岡村 そもそも、平和首長会議の目指すところ、目的はどのようなものですか？

松井 平和首長会議の目的は、「国や民族、宗教、思想を超え、世界の都市が緊密な連携を築くことによつ

広島県生協連創立 50 周年企画 対談：「平和の未来を考える」



て、核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起し、核兵器廃絶を実現させるとともに、人類の共存を脅かす飢餓、貧困、難民、人権などの諸問題の解決、さらには環境保護のために努力することによって世界恒久平和の実現に寄与する。」というものです。

岡村 会議の現況はどのようになってきていますか？

松井 現時点（10月1日現在）、162か国・地域の7,453の都市が加盟しており、加盟都市の総人口は10億人に及び、世界の総人口の7分の1に相当します。日本国内では、全市区町村の96・9%に相当する1,687自治体が加盟しています。

平和首長会議では、2003年に2020年までの核兵器廃絶を目指す行動指針「2020ビジョン」（核兵器廃絶のための緊急行動）を策定しました。世界的なネットワークを活かし、加盟都市と連携を図りながら、核兵器廃絶に向けた様々な活動を展開しています。

具体的には、国連や各国政府等に対する要請活動の展開、加盟都市の拡大、被爆樹木の苗木・種の配付、青少年「平和と交流」支援事業、「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名活動等に取り組んでいます。

岡村 今後の取組はどのようなものになりますか？

松井 先般、長崎市で第9回平和首長会議総会を開催し、2017年から2020年までの新たな行動計画を策定しました。今後は、世界恒久平和の実現を目指して確実に歩を進めていくため、「核兵器のない世界の実現」と「安全で活力のある都市の実現」の二つの目標に取り組むこととしています。いずれの目標においても、国際世論の醸成・拡大が不可欠となることから、次代平和活動を担う青少年の育成に重点的に取り組んでまいります。

核兵器禁止条約について

岡村 今年7月、国連において核兵器禁止条約が採択されました。松井市長も交渉会議に出席し、「条約草案は被爆者の苦しみや願いをきちんと受け止め、言及していることを心から歓迎する」と述べられました。しかし米国の傘の下にある日本政府は交渉会議に参加しませんでした。核兵器禁止条約に対する評価はいかがですか？

松井 核兵器禁止条約は、国連加盟国の6割を超える122か国の賛成により採択され、多くの国々による核兵器廃絶に向かう明確な決意を示したものであり、この条約の採択を心から歓迎しています。

また条約は、「核兵器のない世界」を実現させるための第一歩としての実践的な核軍縮措置の次のステップの根拠となるもので、各国政府には、現状に留まるのではなく、こうした考えを共有した上で、被爆者の良心からの訴えである「核兵器のない世界」に向けた取組を誠実に前進させてもらわなければならないと考えています。

平和首長会議においては、先日開催された第9回総会において、ナガサキアピール及び核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議を採択いたしました。8月末までに、全加盟都市に送付し、理解と協力をお願いしたところです。また、ニューヨークとジュネーブの各国政府代表部へも送付し、平和首長会議の取組への理解と協力を求めました。

岡村 条約が実効性のあるものになるにはどのようなことが必要ですか？

松井 核兵器禁止条約が実効性のある条約となるために、平和首長会議が取り組むべき課題は、「市民社会の総意として、核兵器を廃絶することこそ今後のあるべき姿だ」という認識を、核保有国を始めとするできるだけ多くの国に共有してもらい、批准につなげていくことであると考えています。また、交渉会議に参加

広島県生協連創立 50 周年企画 対談：「平和の未来を考える」



しなかった核保有国等が条約推進国と同じテーブルにつき、この条約が十分に法的実効性を持つものへと育てていくための議論を進められるような環境を作っていく必要があります。

そのため、平和首長会議では、そのネットワークを活用し、各国の政治指導者が核兵器廃絶に向けて果断なリーダーシップを発揮することができるよう、国内外の多様なパートナーと共に環境づくりをしていきたいと思っています。

岡村 環境づくりが大事ですね。

松井 核兵器禁止条約については、核保有国は、現在保有している核兵器を禁止されると困る。国家の指導者は、国と国民を守るため、いざとなったら「武器」を使わざるを得ない。その延長線上で、最大の武器を持つているということを違法とされたのでは、国家の指導者としてはやりにくい、ということになるのは当然です。そういう意味で、核保有国は「核兵器禁止」というのは困るということになります。

それを、減らすということになると、「向こうがこちらより多いから、力を維持して減らす」ということは可能になる、ということでしょう。

しかし、核を持つている限り優位に立てる、それをこちらが負けたくないということになれば、いつの間にかより多く持つ競争というのは起こります。

本当に核兵器をなくすには、今はこういう現実があつても、最終的には、お互いに駄目だということにして約束することが何故できないのか、ということだと思います。それを目指してやろうということですね。

次代に対して何をするか

岡村 市民社会の世論を高めていくことが必要です。生協は市民団体として、他の団体と連携した取組を進めています。世論形成についてお聞きます。

市民社会の力を高揚させるにはどうすればいいとおわれますか。

松井 被爆者の「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という心からの叫びを受け止め、息の長い活動に地道に取り組んでいくことが必要だと考えています。核兵器廃絶は一朝一夕に実現しうるものではありません。次代の平和活動を担う青少年の育成など、時間がかかることにも取り組んでいくことです。

岡村 生協に対してどのようなことを期待されますか。

松井 生活協同組合には、日頃より、消費生活、防災、平和など幅広い分野で市政の推進にご理解とご協力をいただき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。とりわけ、平和分野におきましては、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指し、積極的に活動してくださっていることに對し、心から敬意を表します。生活協同組合の皆様には、今後ともそのネットワークを活かし、是非ともヒロシマの願いを共有し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指し、積極的に行動していただくことを期待しています。

岡村 生協は、今後も平和首長会議と一層連携を取りたいと思います。

松井 これまでも生活協同組合の皆様には、市民署名活動や国内自治体の加盟要請、様々な行事等を通じて連携・協力をいただいてまいりました。今後とも、折にふれ情報交換を行い、核兵器のない平和な世界の実現に向けて、幅広い層の市民を対象にした平和の取組や、加盟都市の拡大を目指した取組など、様々な分野で連携・協力をお願いします。

岡村 国際世論の醸成・拡大のために平和首長会議は今後どのような取組を進めますか。

松井 重点取組事項として次代を担う若い世代の意識啓発を目指すウェブサイトなどを活用した平和教育の実施や、広島・長崎に受け入れる青少年「平和と交流」

広島県生協連創立 50 周年企画 対談：「平和の未来を考える」



支援事業等の充実を掲げ、今後の平和活動を担っていく青少年の育成を推進していきます。

岡村 生協も次代に伝えるために「子ども平和会議」や「ピースナイター」などに取り組んでいるところで

す。

市民6団体（両広島県被団協、広島県地域女性団体連絡協議会、広島YMCA、広島県青年連合会、広島県生協連）にはどのようなことを期待されますか。

松井 市民6団体は、1979年（昭和54年）から平和行進、2011年（平成23年）からは市民の集いを主催されており、その息の長い活動に敬意を表します。引き続き、市内の団体が結集して、こうした取組を継続していただくことを願っています。

岡村 現在、全国でヒバクシャ国際署名活動が進められています。被爆者7団体を中心に、生協や広島YMCAも加わり、県内で140万筆を目標に取組を進めています。ヒバクシャ国際署名に対する意見をお聞かせください。

松井 「ヒバクシャ国際署名」は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、全ての国に求める署名活動であり、市民社会の核兵器廃絶に向けた意識を高揚させ、幅広い国際世論の形成を図るうえで、大きな役割を果たすと考えています。

そのため、私や平和首長会議事務総長の賛同メッセージ等を「ヒバクシャ国際署名」のアピールポスターやパンフレット、ウェブサイトに掲載するなど協力を行っています。本年6月には、広島県の被爆者7団体が協力して実施している「ヒバクシャ国際署名」の街頭署名活動に私も参加し、共に署名を呼び掛けました。さらに、私と長崎市長の連名で、国内外の平和首長会議加盟自治体に対して、「ヒバクシャ国際署名」への賛同を呼び掛ける文書を送付いたしました。また、本年8月に策定しました平和首長会議の行動計画においても、「ヒバクシャ国際署名」と連携した「核兵器禁

止条約」の早期締結を求める署名活動を展開することとしています。

被爆者の呼び掛けにより始まったこの署名活動が、世界中の多くの人々の賛同を得て、核兵器廃絶に向けた大きなうねりとなることを期待しています。

岡村 今後も、核兵器廃絶と平和な世界の実現に向けて、生協は関係団体と連携を取りながら積極的に進めていきたいと思っています。どうかご協力をお願いいたします。

松井 市長様の今後のますますのご活躍をご祈念して、対談を終わりたいと思います。

本日はありがとうございました。

松井 私の方こそありがとうございました。これからもご協力をよろしくお願い致します。

松井 一實 広島市長プロフィール

1953年（昭和28年）生まれ、広島市東区牛田出身
1971年広島市立基町高校卒業、1976年京都大学法学部卒業と同時に労働省入省。以後、在英国日本大使館一等書記官、労働省婦人局婦人労働課長、労働省職業安定局高齢・障害者対策部高齢者雇用対策課長、厚生労働大臣官房総務課長、厚生労働省大臣官房総括審議官（国際担当）ILO理事（政府代表）、中央労働委員会事務局長を歴任。2011年広島市長就任、2015年広島市長再任後、今日に至る。

岡村 信秀 広島県連会長理事プロフィール

1948年（昭和23年）生まれ、福岡県大牟田市出身。同志社大学商学部卒業。卒業と同時に大和証券に入社、1975年広島県商生活協同組合（現生活協同組合ひろしま）に入協、1979年常務理事、1998年広島県生活協同組合連合会専務理事、2012年同会長理事に就任、今日に至る。この間、広島大学大学院生物圏科学研究科博士後期課程終了。博士（学術）。

ヒバクシャ国際署名 介護職員スキルアップ研修・「介護事業戦略トップセミナー」を開催

「ヒバクシャ国際署名」
街頭署名に取り組みました！

街頭署名の様子



横断幕を持って呼びかけました

12月20日、両広島県原爆被害者団体協議会（広島県被団協）をはじめ被爆者7団体の皆様と共にヒバクシャ国際署名の街頭署名に取り組んだ。街頭署名には24人が参加し、179筆の署名が集まった。「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN）のノーベル平和賞受賞後の街頭署名という事もあり、快く署名していただける方も多かった。

街頭では、ICANのノーベル平和賞授賞式に合わせて現地を訪れた広島県被団協の佐久間邦彦理事長が「署名を広め、核兵器禁止条約の発効へアピールしたい」と呼びかけた。また、一緒に平和賞授賞式に同行した広島県被団協（坪井理事長）の箕牧智之副理事長は、「核兵器廃絶を世界の人たちから求められていることを肌で感じている」と呼びかけた。署名に協力いただいた方から、「核兵器を持つている国があると安心できない。核兵器廃絶へ少しでも力になれば」「ICANがノーベル平和賞を受賞して関心も高まっており、核兵器廃絶がすすんでほしい」という声も聞いた。

広島県内の署名数は、目標140万筆に対して12月18日現在18万867筆（会員生協分11万9249筆）となっている。（報告…広島県生協連 森島哲司）

「介護職員スキルアップ研修」を開催

広島県生協連は、今年度の介護職員スキルアップ研修（広島会場）を、12月16日に広島中央保健生協けんこうプラザで開催した。講師は（一社）広島県シルバーサービス振興会横山英典常務理事、テーマは「介護安全管理の基礎知識と事故防止に備える組織づくり」。研修には、3法人17事業所より20名が参加した。研修の中で、参加者は、講師から「リスクマネジメントのPDCAサイクルがしっかりと回っているか」と問われ、インシデント報告の重要性を再認識した。

また、介護事業におけるリスクマネジメントの位置づけは、事故予防に直接関連する体制づくりばかりでなく、体系的な職員教育、人事査定・評価、労務管理、設備投資などといった各種の組織におけるマネジメント活動とかかわりを持っていることを知った。同時に、施設として、利用者・家族へのより質の高いサービスを提供することを可能にするものだということを学んだ。

（報告…広島県生協連 藤代えり）



(上) 会場の様子
(下) 熱心に講義を聴く参加者



「介護事業戦略トップセミナー」研修を開催

広島県生協連は、12月19日に介護事業のトップセミナーを広島医療生協にて開催した。研修には、20名が参加し、2018年の医療・介護報酬同時改定に向けた学習会の第二弾として、民間実践事例報告を基に今後の介護事業の重点や方向性について議論した。報告は30分、その後は活発な質疑と意見交換を行った。

社会保険労務士の相川哲朗氏。「当社の経営戦略」では、〃丸ごと〃多機能サービス〃地域づくり〃という内容が参加者を刺激し共感を呼んだ。

生協の介護事業と医療・購買連携に対する、講師の主な感想、意見は3つ。「これからは〃丸ごと〃多機能〃をもって地域作りをして行く事が大切。」「訪問系の事業（定巡、訪看）に確信を持って取組む。」「医療生協の強みである医療のある事を活かしていない。良い意味の囲い込み、連携をすすめること。〃。〃という言葉が寄せられた。広島県生協連では、これらの

会場の様子



具体化を今後進めていく。
（報告…広島県生協連 岡崎 晃）

理事会・委員会報告 消費者ネット広島

理事会・委員会報告

第3回理事会報告

開催日 9月28日

場所 広島県生協連

3階会議室

出席 理事18名中14名出席

決議事項

1. 他団体の公職承認の件について、広島県森林審議会の委員について承認した。

2. 他団体の協賛について、ひろしま地球環境フォーラム「家庭における省エネ行動の促進（ひろしまエコチャレンジ）」、広島県社会福祉協議会「平成29年度福祉・介護業界紹介番組の制作及び放映に係る負担金協力」の協賛依頼について承認した。

協議事項

1. 広島県生協連50周年企画について確認した。

2. 2018年度広島県への要請事項について確認した。

3. 新春のつどいの開催日、開催場所、講師について確認した。

報告事項

1. 3生協の共同事業化にむけた取り組みについて報告し確認した。

2. 福山市立大学生協の設立について報告し確認した。

第4回理事会報告

開催日 12月1日

場所 広島県生協連

3階会議室

出席 理事18名中13名出席

決議事項

1. 2018年度通常総会の開

催要項（6月20日開催、代議員数の確定等）と上程議案について承認した。

2. 他団体の公職承認について、広島県生活衛生適正化審議会の委員について承認した。

3. 他団体の後援について、「シンポジウム地域で防ごう消費者被害in広島」（日本弁護士連合会、広島弁護士会主催）の名義後援について承認した。

協議事項

1. 広島県との地域包括連携協定の締結に向けて進捗状況の報告があり協議し確認した。

2. 2017年度決算（上期決算・年度末予測）報告と上期監査報告があり協議し確認した。

3. 2017年度活動報告（中間報告と2018年度方針・骨子案）について協議し確認した。

報告事項

各事項について説明を行い、全事項について確認した。

1. 広島県生協連50周年企画の開催報告について

2. 2018年度広島県への要請事項と回答について

3. ヒバクシャ国際署名名の「広島県推進連絡会」発足に向けて呼びかけ人と賛同について

4. 新春のつどいの開催について

5. 3生協の連携推進に向けて、3生協連携協定の締結

第3回組織平和委員会報告

開催日 9月1日

場所 広島県生協連

3階会議室

出席 理事18名中14名出席

決議事項

2017年度平和活動について、けんこうチャレンジ2017について

・広島県生協連50周年企画について

・「憲法問題を考える」学習会の開催について

第4回組織平和委員会報告

開催日 11月17日

場所 広島県生協連

3階会議室

出席 理事18名中13名出席

決議事項

2018ピースアクションinヒロシマについて

・ヒバクシャ国際署名名広島県推進連絡会準備会について

・食品の表示ウォッチャーについて

第3回福祉・介護委員会報告

開催日 11月27日

場所 広島県生協連

3階会議室

出席 理事18名中13名出席

決議事項

・健康づくりの活動（けんこうチャレンジ、アミノインデックス）に関する報告

・行政との連携について

消費者ネット広島

消費者トラブルの手口を知ろう⑤

手口を知ろう⑤

近々、振り込め詐欺やインターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

★購入業者は、前もって電話等で連絡した場合でも、消費者が事前に承諾した買い取り対象以外の物品について売却を求めることはできません。「貴金属はないか」などと当初とは違う物品の売却を突然求められたときは、きっぱりと断りましょう。

★訪問購入はクーリング・オフが出来ます（法律で定められた書面を受け取った日を含めて8日間）。この期間内は購入業者に物品を引き渡さないことがトラブルを防ぐ一つの方法となります。

★不安を感じたときや困ったときは、早めにお住まいの自治体の消費生活センター等にご相談ください。

（消費者ホットライン188）（消費者ネット広島宗山事務局長

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

訪問して買い取りを行う業者との契約は慎重に

（2017年9月26日 独立行政法人国民生活センター 見守り新鮮情報第290号より）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

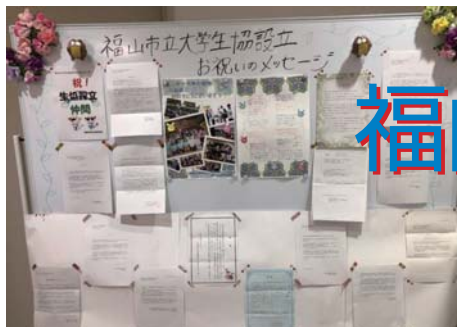
「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）

「不用品があれば買い取る」と女性が訪問してきた。突然だったのですが、すぐには用意できないことを伝えると、1時間後に今度は男性が来た。いろいろな洋服等を出したが「壊れた宝飾品があれば出してほしい」と言われ、指輪等を含めて2万5千円で購入してもらった。その後、形見の指輪を渡したことを後悔し、また買い取り価格が安すぎると思い、買い戻したいと電話をしたところ「商品は別の業者に渡してしまった」と言われた。（60歳代 女性）



寄せられた祝電等

福山に大学生協誕生！

日々のことから

広島大学生協及び福山市立大学生協
専務理事

吉山 功一
よしやま こういち

福山市立大学は2011年4月、福山市港町に開学しました。教育学部と都市経営学部があり、約1,000名の学生と約100名の教職員で構成されています。開学当初から民間業者による食堂と売店の運営が行われていましたが、利用者の要望に 대응することが難しかったようで、2社目の業者も2017年7月に撤退されました。

自分たちの手で

昨今の大学生協設立は、少子化の時代になり入学志望者を増やすための方策として福利厚生を充実させるという意図で、大学当局が主導し学生を後押しするという形が多いのですが、福山市立大学の場合は違いました。「自分たちが利用したくなるような食堂や売店を自分たちの手で！」と考えた学生有志により2015年に「生協設立準備会FOREST」という学内団体が結成されました。彼らは自分たちの意志で生協を創るために必要な活動を考え行動しました。主には大学生協の訪問、視察（岡山大学や広島大学、さらには似たような規模ということで奈良県立大学にまで出掛けました。しかも自己負担で！）、学生の生活実態や要望を知るためのアンケート調査の実施、さらに大学に提出するための自主的な設立要望署名集め、等々。彼らの熱意は教員のみならず、大学職員をも動かすチカラとなり、ついに2017年6月に「生協設立を目指す学内合意」を得るに至りました。

9割近くの学生が賛同



がんばった学生、教員の皆さん

以上の経過は設立趣意書にも反映されています。趣意書自体も学生が起草し教員含めて論議しまとめられました。印象的なことがあります。趣意書には民間業者撤退までのいきさつも書かれていて、「学内の事情を残しておくのはいかがなものか」という意見もありました。そんな中、ある先生が「ここにいる学生、教職員はこの先何十年かすると誰もいなくなる。生協を創るに至った理由を隠すことなく記しておくことは将来の学生教職員ののために大事なことはないか」と言われました。この発言により趣意書の「肝」が全員理解できたと思います。会議に立ち会った私自身が強く感動した出来事でした。



総会 採決の様子

その後も学生のパワーは衰えることなく、発起人会の呼び掛けになんと873名もの賛同署名が集まりました。2017年12月8日に創立総会が開催され、書面議決書を含め699名の学生、教職員が参加、圧倒的多数の賛成により全議案が可決承認されました。現在、広島県へ認可申請中で、2018年1月中の法人登記完了を予定しています。

生協の連帯の強さに感謝

創立総会には全国の大学生協から、また多数の県内生協からお祝いと励ましの祝電・メッセージをお寄せいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。福山市立大学の皆さんはとても驚き、喜ばれていました。生協の連帯の強さ、大きなを感じていただけたと思います。

【編集室から】
365日と5時間数分・数秒かで太陽の周りを一周する地球の公転軌道には、暦という刻み目はない。が、人間が定めた新しい年が始まった。一年という暦の始めと終わりは、どういうわけか、世界中の人たちが、何らかの形で騒動する。地球の軌道は反れていないのに、何年か前になるが、高校の同級生が、現役を引退し、高齢者の仲間入りをすると同時に、「これからは一切年賀状を出しません」という宣言の年賀状をくれた。受け取った自分は、「なかなか粋なことをやるではないか」とその決断に賛同してはみたものの、そうしなかった自分は、以後、年の瀬・年始を迎える毎に、何かをすることが次第に億劫になってきたのを感じている。ということを考えて、広島に原爆が投下されて後、70数年に渡って、平和を願い、核兵器廃絶を訴えてきたヒバクシャの努力には、頭が下がる。長年にわたって報われることはなかったが、「核兵器禁止条約」、ICANのノーベル平和賞受賞は、大きな朗報となった。(Y)

平和とよりよき 生活をめざして



広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp